



全国大会出場を決めた狛江ボーイズ

狛江ボーイズ 18年ぶり全国大会出場

狛江市の中学生硬式野球チーム「狛江ボーイズ」が第49回日本少年野球選手権大会の全国大会へ18年ぶりに出場する。

6月17日(日)にダイワハウススタジアム(八王子市)で行われた東京都西支部予選決勝で八王子桑都ボーイズに7対0の5回コールド勝ちで優勝、4度目の栄冠をつかんだ。

狛江ボーイズは昭和59年に創設、狛江市内を中心に川崎市、調布市などの中学生が所属している。今シーズンは3年生11人というギリギリの選手数に加え、エースで主将の前田藤海斗君がヒジの故障で出場できないという大きなハンデを抱えて大会に臨んだ。しかし、持ち前のチームワークと、粘り強い守備力を武器に強豪を倒して勝ち進んだ。

水崎将勝監督は「すごい選手がいるわけではないが、子どもたちが試合ごとに精神的に強くなり、集中力が増した。全国大会ではさわやかイレブンとして精一杯がんばりたい」と話していた。

狛江ボーイズは2日(日)午後4時10分から佐藤薬品球場(奈良県橿原市)で愛知県西支部代表の愛知小牧ボーイズと対戦する。

狛江産野菜で食育講習会 調理実習で地産地消学ぶ

食育講習会「狛江の畑を食べよう」(狛江市主催)が



狛江産野菜で料理

7月11日(日)にあいとぴあセンターで催された。

狛江産の野菜を使った料理の実習を通して地産地消について知ってもらうために催されているもの。約20人の女性が参加、講師として招かれた農業委員の小川保さん、松坂進さんが、農業委員会の仕事や体験農園について具体的な例を挙げながら説明した。

続いて狛江市健康推進課の管理栄養士植木さおりさんの指導で、2人から提供された野菜を使って「かぼちゃ白玉」「ピーマンの昆布あえ」を作った。参加者たちは料理を味わいながら「収穫したばかりの野菜なのでおいしい」「新鮮な野菜を提供する農家が近くにある大切さを知りました」などと話していた。

多摩川いかだレース 86艇が企画や速度競う

「狛江古代カップ第28回多摩川いかだレース」(同いかだレース実行委員会主催)が7月15日(日)に催され、猛暑の中、手作りのいかだ86艇が参加した。

いかだは7~8艇ずつ12のグループに分かれ、五本松付近から二ヶ領用水宿河原堰付近まで約1.3kmを下った。途中には浅瀬もあり、いかだを降りて押すチームも見られた。2階建ていかだなどデザインに凝ったものに加え、いかだの上でダブルダッチを披露するチームもあり、観衆を喜ばせた。

レースの結果は、いかだのできばえやアイデアを競う企画部門で狛江六小いかだファイターズAが最優秀企画

賞を獲得、タイムレース部門ではハートフルおやじファミリー号が11分0秒で優勝した。

フルーツをあしらったプリン・アラ・モードのいかだで最優秀企画賞を受賞した狛江六小いかだファイターズAの子どもたちは「みんなでアイデアを考えたので、すごくうれしい」と喜んでた。新造のいかだで2位に1分15秒の大差をつけて5連覇を果たしたハートフルおやじファミリー号代表の関谷勉さんは「スタートがうまくいき、浅瀬も乗り越えられた。このいかだで2020年のオリンピックまで7連覇をめざしたい」と笑顔で話していた。

表彰式が行われた多摩川緑地公園グランドでは、狛江高校箏曲部、MOGURA、Singer haruの演奏、特産の枝豆を提供するピアガーデン、多摩源流小菅村ウルトラクイズなどが人気を集めていた。

夏休みの公民館を開放 子どもたちに昼食提供

夏休みに合わせて「公民館子どもの居場所事業」が12日(日)~19日(日)に西河原公民館と中央公民館で初めて実施される。

小中学生を対象に期間中は午前9時~午後5時(中学生は6時)に専用の部屋をフリースペースとして開放する。

また、みんなの居場所、月末食堂、こどもの多摩里食堂、ごはん+居場所 おかえりの4団体が協力、西河原公民館は13日(日)、14日(日)、18日(日)、中央公民館は12日(日)、15日(日)、17日(日)に昼食(各50食)を無料で提供する。また、こまえ学習サポートプロジェクトのボランティアが学習支援を行う。

公民館子どもの居場所事業の問い合わせ ☎3488-



狛江六小いかだファイターズA



ハートフルおやじファミリー号

4411中央公民館、☎3480-3201西河原公民館。

食事提供に学習支援も

NPO法人子ども食堂は夏休み中の子どものために「子ども食堂」の開催日数を増やすほか、学習支援なども行う。

日程は上和泉地域センターで4日(日)午前10時~午後3時(ドッチビー大会を開催)・9日(日)・13日(日)・16日(日)・20日(日)・30日(日)午後5~7時、野川地域センターで6日(日)午後4時~7時、南部地域センターで29日(日)午後5~7時に開く。また、学習支援を兼ねた「ためき先生のSPEAK ENGLISH~君もこれで英語が話せる~」を7日(日)・21日(日)午後7~8時に岩戸地域センターで開催する。

問い合わせ ☎090-1766-6992市川。

23日夜に灯ろう流し 夜の多摩川に数百基

狛江の夏の風物詩として親しまれている多摩川灯ろう流し(多摩川灯ろう流し実行委員会主催、狛江市観光協会後援)が23日(日)午後6時30分から多摩水道橋下流で催される。

世界平和と環境保全を祈って屋形舟から灯ろう数百基を流す。灯ろうは1基1,000円で、申し込みを22日(日)まで市内6カ所の寺院で受け付けるほか、会場



◆ 69 ◆

父から受け継いだ昔ながらの中華の味

松原通りのバス停「和泉狛江消防署前」にある中華料理 丸餅(和泉本町3-8-6)は40年余りにわたって昔ながらの中華の味を提供してきた。

創業者は水越勲さん(昭和19年~平成27年)とかず子さん(昭和26年~平成11年)夫妻。勲さんは、朝ラーメンで知られる静岡県藤枝市の大正時代から続く老舗ラーメン店の次男に産まれた。実家は兄が継いだため、中華料理の店を持つ夢を抱いて16歳で上京、渋谷区千駄ヶ谷の中華料理店に就職し、住み込みで出前や接客、調理、経営などの経験を積んだ。かずさんは新潟県小千谷市の生まれで、上京して渋谷区の日本そば屋に就職、接客や出前のノウハウなどを学んだ。ふたりは顧客の出前先で



開店当時の店舗(昭和50年)

知り合い、自分の店を持つと意気投合、昭和47年に勲さんが同区幡ヶ谷に住宅付きの店舗を借りて中華料理店を開業、同時に結

も当日午後4時から6時まで受け付ける。雨天の場合は24日(日)に順延。

問い合わせ ☎3489-8440圓住院内多摩川灯ろう流し実行委員会事務局。

ゆらめくキャンドルの光 静かな合唱にうつり

7月7日(日)に市役所前市民ひろばで「キャンドルナイト」が催され、訪れた約200人の市民たちは、庁舎前の階段に並べられた約300個のキャンドルの静かなともしびと、狛江第二中学校と狛江第四中学校の合唱部の歌声を楽しんでいた。

こまえ工房が結婚式場などから回収したロウで作ったロウソクと、リサイクル



婚した。店の名前「丸餅」は、かな表記だった実家の屋号を漢字に変えて付けたという。店は繁盛したが長男が生まれて狭くなり、2人目の子の出産を前に店舗付きの住宅を探したところ、現在の場所の近くに適当な家が見つかり、50年に移転開業した。

当時は近くに商店はあったが飲食店はほとんどなかったため、商売はすぐ軌道にのった。付近にあった会社や工場からの注文も多く、パートを雇って出前に力を入れた。また、宴会に利用する企業も多く、業績を伸ばして店舗を敷地いっぱい拡張した。

松原通りの拡幅にともなって現在の場所に3階建ての店舗を新築して平成9年に移転した。かずさんはその少し前から病気になり入退院を繰り返したため、3人の子が店を手伝ったが、移転後間もなく亡くなった。

現店主の伊藤ゆかりさん(42)は、水越さん夫妻の長女で2人目の子として生まれた。両親の働く姿を見て商売の大変さを知っていたので、家業を継ぐつもりはなかったという。伊藤さんは、小学



伊藤さん(右)とフロア担当のカレンさん

生の頃からの夢をかなえて美容師になったが、かずさんが病に倒れた時は美容師の仕事を中断して家業を手伝った。その後、横浜の中華街で修行していた兄が店を継ぎ、弟も店の出前を手伝うことになった。伊藤さんは美容師の仕事に復帰、結婚後も狛江市内に住んで仕事を続けた。しかし、家業を継いだ兄は3年ほどで家を出たため、16年前から再び店を手伝うことになり、父の勲さんから長年守り続けてきた店の味を教えられた。2年前から出前をやめたが、替わりにほとんどのメニューを持ち帰れるようにした。

伊藤さんによると、常連客が8割を占め、親子2代で来る客も多いという。「なじみのお客様の励ましが力になっています。小学6年の娘は料理の仕事が好きで、よく手伝ってくれるので、一緒に50年をめざしてがんばりたい」と話している。

丸餅 ☎3488-2352 営業時間=午前11時30分~午後2時/5時~8時30分 火曜・第3月曜休み。

昭和50年に狛江で移転開業/なじみ客の励まし力に



キャンドルに照らされた庁舎

で出されたビンを使って地球温暖化など環境問題について静かに考えてもらおうと毎年開いている。

健康体操通し交流の輪 元気スクールに新拠点

高齢者の介護予防のための体操を行っている「元気スクール」(山口正忠代表)の新しい活動拠点として西野川の介護付有料老人ホーム「メディカルホームグランド 狛江参番館」が加わり、7月から活動している。

同会は平成23年に発足、ピラティスインストラクター内山尚子さんを講師に招き、野川地域センターなどで活動。昨年度から狛江市介護予防・日常生活支援総合事業の通所型サービスB運営団体の指定を受け、こまえ正吉苑、こまえ正吉苑二番館でも活動している。参加者が増えて野川地域センターだけでは狭くなり、場所を探していたところ、メディカルホームグランド 狛江参番館から入居者と地域のひととの交流につながると会場を提供する申し出が寄せられ、話がまとまった。

活動日は毎週月曜日午後2時から3時30分で、ヨガや気功を取り入れた健康を

維持する体操を学ぶ。参加費は月額2,000円。

問い合わせ ☎080-5684-5376石井さん。

はたらく消防の写生会 入賞作を市役所に展示

「はたらく消防の写生会」の入賞作品の展示が9日(日)~17日(日)午前8時30分(9日は午後1時)~午後5時に市役所2階ロビーで行われる。

消防への関心を高め、防火防災意識の向上を目的に市内の小・中学校で消防自動車などの写生会を4月から5月にかけて開催、その中から入賞作品を展示する。

問い合わせ ☎3480-0119狛江消防署予防課防火査察係。